

はじめに

【金沢大学女性研究者支援事業 最終報告】

金沢大学の「やる気に応えます 金沢大学女性研究者支援」事業は、平成 20 年度に採用され今年度がその 3 年間の最終年度です。3 年間の事業の実施とその成果、また来年度以降の方向性について報告いたします。

プロジェクト全体の運営は、「金沢大学男女共同参画キャリアデザインラボラトリー」に新たに配属されたプロジェクト・オフィサー2 名（特任准教授・助教）が中心となり、多岐にわたる取組みを展開しました。女性研究者が働きやすい職場環境整備のための支援策の立案と実行、また、女性の活躍を直接・間接に支える広報や啓発活動・報告会の開催などです。まず「人材サロン WIL」を立ち上げ、学内外の人材ネットワークを形成し、そこでの人材を「研究パートナー」の制度等と連携させ、また、本学の特徴である Skilled Specialist という新たな職種を運用し、女性研究者のキャリア・パスと位置付ける、などです。その他、里山を利用した保育・学童支援なども行いました。

これらの取組みの成果は、本事業申請時のミッションステートメントの達成状況に端的に示されています。「本事業終了時には、女性研究者の割合を 16%、理工系女性研究者数は現行から 4 名増やして 8% に、さらには教授職を 9 名増やして 12% へ」という目標値を掲げましたが、平成 22 年の 5 月 1 日現在、女性研究者割合は 18.2% です。理工系女性研究者数も 4 名増えました。最後の教授職の女性割合については、准教授の 6 名が他大学や企業に転出し、そのうちの 3、4 件の教授昇任があった結果、本学では 12%には届きませんが、全体的には、数値目標はほぼ達成されたと考えています。

申請時の計画以外の成果や取組みもいくつかありました。平成 21 年 10 月より、新たに男女共同参画の学長補佐の設置、また公募要綱には女性研究者を歓迎する旨の文言を書き込む、さらには、地域連携の一層の強化があります。その他、現行の取組みの拡大や学内他部局との連携があげられます。

本事業に着手した感想としては、女性研究者を増やすのは、継続的で着実な取組みが必要だということです。既存の意識や価値観の点検・見直しという目に見えない意識レベルの検証と同時に、まずは女性研究者にポストを与え、研究者として目に見える活躍に期待することの必要性を痛感します。その観点から、次に繋ぐ事業として現在 12 大学が取り組んでいる「女性研究者養成システム改革加速」への申請には大いなる期待を持ち、昨年度から申請書類を整えていたのですが、事業そのものが無くなり、極めて残念です。しかしこの状況の中でも、本学が着手し効果を上げた取組みは進めてまいります。

今後とも金沢大学の男女共同参画の推進についての御理解と御協力とをよろしく願いいたします。

金沢大学男女共同参画キャリアデザインラボラトリー長

八重澤 美知子